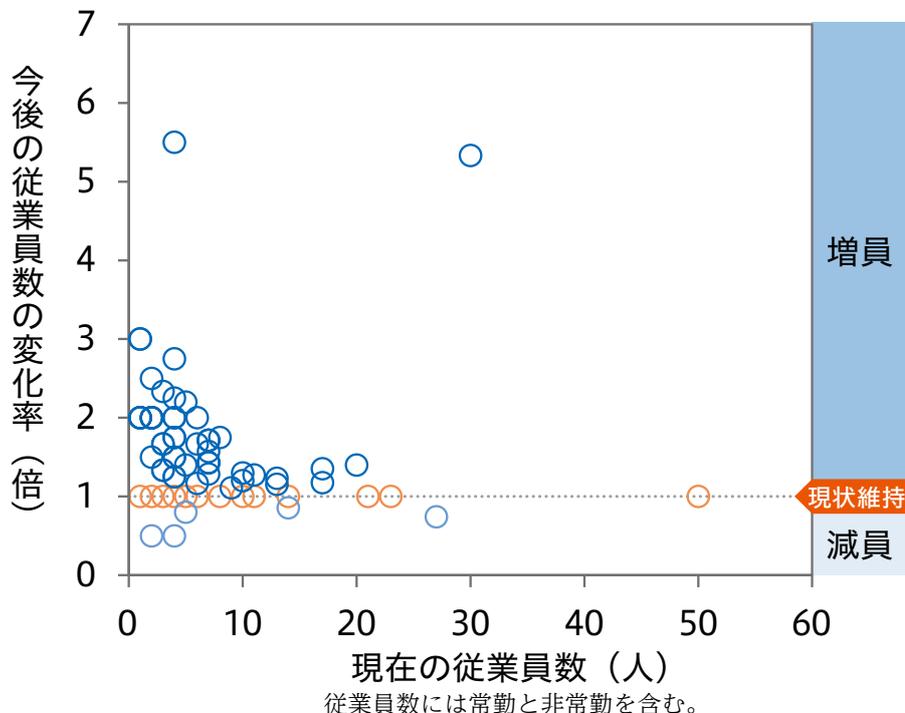




ポイント

コンテナ苗の生産ポテンシャルは非常に高い

山林用針葉樹苗の需要が伸びた場合、現在の従業員数に対して、今後最大で何倍に増員もしくは減員するか？



現在の従業員数から増員すると回答した生産者は全体の51%、現状のままが44%、減員する生産者は5%でした。

増員する場合、現在の従業員数の1~3倍(人数にして1~8名増)とする生産者が大半でした。

注) 変化率は、今後の想定値を現状値で除して得ています。

山林用針葉樹苗の需要が伸びた場合、現在の裸苗もしくはコンテナ苗の生産本数に対して、増産もしくは減産するか？

	現状維持	増産	減産
コンテナ苗	7%	91%	3%
裸苗	27%	44%	29%

注) 小数点以下第一位を四捨五入しているため、内訳の合計値が100とならない場合があります。

仮に山林用針葉樹苗の需要が伸びた場合、コンテナ苗を増産するのは生産者の91%、現状維持が7%となりました。

一方、裸苗を増産するのは生産者の44%にとどまり、現状維持が27%に上りました。

このことから、生産者がコンテナ苗の増産に対して非常に高い意欲をもっていることがわかりました。

一方、将来的に苗木の需要が伸びたとしても、現状より減産したり従業員数を減らす生産者もわずかに見られました。

苗木生産事業の後継者不足やコンテナ苗の不安定な需要等により(17ページ参照)、生産規模を縮小せざるを得ないと考えている生産者の存在が浮き彫りとなりました。